

福島税務署長賞

一人がみんなのために

福島市立蓬萊中学校

三年牛坂安未

私は小さい頃、消費税が大嫌いでした。なぜかというと、百円のお菓子を買う時に必要な五円は、小さい頃の私にとっては、結構な大金だったからです。そのため、買いたい物を我慢しなければならぬ時がたくさんありました。そして、私は消費税が何のためにあるのか、何に使われているかを分かっていませんでした。だから私は小さい頃、消費税が嫌いでした。しかし、だんだん税金のことを聞いたりしているうちに、税金は私達が住みよい環境などで生活をしていけるように、いろいろなところで使われていることを知りました。私が小さい頃から嫌いだった消費税もみんなが払えば、約九兆五千万円になっていて、私はとても驚きました。税金についていろいろなことを知ってから、私は税金が嫌いではなくなりました。みんなが税金を払って、みんなが便利に、そして安全に生活出

来るようになることは、とても素晴らしいことだと思っただからです。私は、そこまで多いわけでもないけれど、自分が消費税を払っていることを嬉しく思うようになりました。

私が住んでいる蓬萊町はニュースになるくらい高齢化が進んでいる町です。そのため、他の町と比べると、蓬萊町はバリアフリーになつていて場所がとも多く、高齢者の方達がとても住みやすい町になつていていると思います。みんなが税金を払ってくれたから、高齢者の方々は、安全に、そして楽しく蓬萊町で生活することが出来ているのだと思います。もし、蓬萊町に高齢者のための、エレベーターや手すり、段差または階段をなくしたゆるやかな道などがなかったら、蓬萊町の多くの高齢者はとても困ると思います。もしかしたら、ケガをしてしまうかもしれません。私が通っていた小学校も、今通っている中学校も、税金で出来ていると知りました。学校があるお陰で、勉強をしたり、部活をしたり、友達をたくさん作ったりすることが出来

ています。学校があるから、毎日楽しく生活することが出来ています。私は最近、税金は日本全体を支えていて、その税金を支えているのは日本国民全員なんだと思うようになりました。一人が払う税金では、みんなを幸せには出来ないけれど、みんなが税金を払えば自分も含めて、みんなが幸せになれるのです。

今は少子高齢化で、若い人が税金を払うことが大変になつていているけど、自分が今、便利に暮らしているのは、税金を払ってくれた今の高齢者のお陰なんだと思つて、大変ですが、日本を支えていってほしいと思います。私が大人になつて税金を払えるようになったら、こんな気持ちで税金を払っていきたく思つています。このように、みんなを幸せにするための税金制度をこれからもずっと続けていってほしいです。